

ヒトゲノム解読終了の意味するもの(その二)

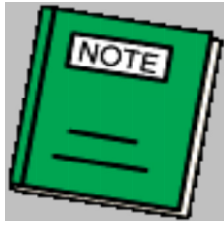
「人間とは何か」ということを考えていきたい

二十世紀には原子や分子についての理解がふかまり、科学的な知識が、質の面でもまた量的な面においてもかつてなかつたほど発展しました。それが土台になって空前の消費文化を招来しました。しかし生物を含む地球環境の急速な悪化をまねくなど、その限界もみえてきました。二十一世紀は生命科学の世紀ともいわれています。遺伝子やゲノム

について考えながら、人間とは何かということを考えていきたいと思えます。

参考書としては

とは云いましてもわたしはこの分野の専門家ではありません。分子生物学を専門にしている人から聞いた話しや、さまざまの解説書などをもとにしてこの大問題にアタックしていきたいと思つています。どのような「参考書」を使ったのか手の内をあらかじめご紹介しておきますと、松原謙一



続 僕の講義ノート



大阪府立大学先端科学研究所

森 利明

(もりとしあき)

「遺伝子とゲノム」(岩波新書)、「科学」(2003年4月号特集・ヒトゲノム解読完了、その先は? 岩波書店)などです。特に松原氏の著書はヒトゲノムの解読をとおして何が分かるのかということが、分かり易くまとめられていますのでおすすしめします。

いったい誰の遺伝子が読み取られたのか

ところで読者の方から「ヒトDNAの提供者はいったい誰ですか」という質問が寄せられました。わたしもその点は興味のあるところですが、これはまさに究極の個人情報なので厳重に保護されているので協力者の名前は伏せられています。ヒトゲノムの解読は、米国、欧州、日本(途中から中国も参加しました)それぞれ

遺伝子とゲノム

何が見えてくるか
松原謙一著 岩波新書
ISBN: 400308151
本体七〇〇円



「ヒトゲノムプロジェクト」のリーダーが、生命科学基本的な考え方と最先端の状況を詳しく解説。

機関から公表されました。

マスコミ情報によると国際チームは、匿名を条件に了解を得た約二百人からDNAの提供を受けたということです。日本チームが解析したDNAには、作家の村上龍氏のDNAも含まれているようですが、これは未確認情報ですからむやみに広めないでください。

セララ・ジェノミクス社のほうは匿名の一人のDNAを集中的に解析し、最終的には人種と性別が違う米国民六人の遺伝情報をまとめたそうです。この匿名の一人というのは、セララ・ジェノミクス社を設立したクレイグ・ベクターその人が、自分のDNAを提供したのではないかなどといわれています。

わたしは個人的にはイエス・キリストと石川五右衛門のゲノムを比較すれば面白いだろうなあと思っていますが、そんなことはできません。そんなこととはでき

(つづく)